

日本語教育部門活動報告 2 – 日本語学習支援サイト RAICHO – (2010年4月～2011年3月)

後藤寛樹

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」とする、<http://tisc.isc.u-toyama.ac.jp/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、留学生センター日本語教育部門が開設・運営しているサイトである。サイト開設のねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点をおいている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。インターネットはわれわれの生活に深く浸透し、インターネットを介してありとあらゆる情報にアクセスできるようになったが、インターネット上には膨大な量の情報があり、求める情報を効率よく探し出すためには、この膨大な量の情報の中から必要とするものを取捨選択する能力が必要とされる。しかし、必要な情報の取捨選択はそれほど容易ではなく、留学生が日本語学習のリソースをインターネット上に求めたとしても、自己の学習に有益な情報をうまく選ぶことができなければ、リソースを学習に効率的に生かすことはできない。そこで、本学で学ぶ留学生に必要な情報を一括して提供する Web サイトがあれば、留学生にとっての利便性が高くなるだろうというねらいのもとで開設したのが、RAICHO サイトである。本稿では、RAICHO サイトの 2010 年度の整備状況等について報告する。

2 2010 年度 RAICHO サイト整備状況および利用状況

2010 年度は、RAICHO サイトの整備、新たなコンテンツの開発は行っていない。留学生センターの日本語プログラムとも連携し、留学生の自律学習を促進させるような体系的コンテンツの開発が必要であるが、時間的な余裕がなく、なかなか実現に至っていない。

RAICHO サイトの利用状況については、学内のみならず、学外からも利用の声が寄せられている。また、「日本語自己学習」コンテンツはユーザ登録をすることによって、利用者が自身の解答履歴を参照できるようになっているが、2010 年 4 月から 2011 年 3 月までの 1 年間に、新たに 314 人がユーザ登録をしてこのコンテンツを利用している。

3 今後の展望

RAICHO サイトは開設から約 8 年が経過した。2 節でも述べたように、2010 年度は RAICHO サイトの整備、新規コンテンツの開発は行っていない。また、2010 年度の 1 年間に、新たに 314 人の利用者がユーザ登録をして、「日本語自己学習」のコンテンツを利用しているということを述べたが、そのうち、継続してこのコンテンツを利用しているのはごく限られた利用者のみで、大半の利用者は、登録後、数回利用したのみにとどまっている。これは、現在、公開しているコンテンツが、文字・漢字、初級レベルの文法の一部、日本語入力練習のみで、体系的なコンテンツが提供されていないために、継続した利用につながっていないからだと考えられる。RAICHO サイトの利用法や評価も含め、この教材をもとにした研究活動も視野に入れて、体系的なコンテンツの開発を行っていく必要があると言える。また、本学で学ぶ留学生に対しては、授業等で必要に応じてこのサイトを紹介し、利用を促してはいるが、コンテンツが十分に整っていないこともあり、本学の留学生に対して全体的に PR することはしていな

い。体系的コンテンツの開発ともからめて検討の上、効果的なPRを行っていくのが望ましいであろう。

富山大学は3つのキャンパスからなる総合大学であるが、留学生数の違いや留学生の専門分野の違い、キャンパスごとの事情などもあり、3つのキャンパスで同内容の日本語支援を行っていくのは難しいという現状がある。できる限り、同内容の日本語支援を行っていくことが望ましい形ではあるが、一方で、RAICHOサイトを利用することで、各キャンパスで行われる授業では補いきれない部分についての支援を行うことも可能である。インターネットを利用したサイトの機能や特長を生かして、留学生の日本語学習支援をさらに進めていくために、本学の留学生に適したコンテンツや授業内容とも連動した形の体系的なコンテンツの開発を進めていきたい。